

## 研究の種類を整理する

研究と呼ばれるものはたくさんある。研究の種類によって、扱う内容、方法、まとめ方が異なると考えられる。研究の種類を分析し、研究とは何かについて理解する手がかりとする。

### ■ スタンダードな研究分類とは

「研究」について、諸文献での分類を見てみると、その文献または分類の視点や立場によって様々な分類が存在することがわかる。

よって、スタンダードな分類を示すことは困難であるが、国際的に標準化して示されている研究の分類のひとつに、総務省が示している「性格別研究分類」がある。文部科学省「科学技術白書（昭和42年版）」<sup>13)</sup>では「一般に研究はその段階に応じて、基礎研究、応用研究、開発研究の3種類に分けることが出来る。」とし、さらに平成19年版同白書<sup>14)</sup><sup>p112</sup>によると、「総務省統計局「科学技術研究調査」では、性格別研究を以下のように定義している」として、次の注書きがある。

基礎研究	特別な応用、用途を直接的に考慮することなく、仮説や理論を形成するため又は現象や観察可能な事実に関して新しい知識を得るために行われる理論的又は実験的研究。
応用研究	基礎研究によって発見された知識を利用して、特定の目標を定めて実用化の可能性を確かめる研究や、既に実用化されている方法に関して、新たな応用方法を探索する研究。
開発研究	基礎研究、応用研究及び実際の経験から得た知識の利用であり、新しい材料、装置、製品、システム、工程などの導入又は既存のこれらのものの改良をねらいとする研究。

上記の分類については、「このような分類の定義は、多少の相異はあるが、諸外国においてもおおむね共通したものである」（科学技術白書<sup>13)</sup>）という記述があり、この分類がある程度世界的に共通したものであることがうかがえる。

この三つの分類は、主に自然科学研究に関する分類であるが、教育研究に適用すると、例えば授業とは直接関係しないが自分の知見を深めるために行う研究を「基礎研究」、得た知見を実践化し課題改善のために行う研究を「応用研究」、さらにそれらを複合して教材を開発する教材研究などは「開発研究」として捉えることができる。

### ■ 様々な研究分類

上記表中に、「理論的又は実験的研究」という表記がある。「〇〇研究」と名の付くものは、理論的研究・実証的研究・実験的研究・歴史的研究、演繹的研究・帰納的研究、主観的研究・客観的研究・・・と多種多様である。自然科学分野での研究、人文科学分野での研究といった、分野別のものまで踏み込むと、その種類は果てしなく広がっていくかのようなのである。これらは先にも述べたように分類の視点によって異なる呼び名が称されるためである。本稿では、教育研究関係の文献における研究分類から、研究の性質についてさらに整理していくものとする。

## ■ 教育研究における分類

西田<sup>6)p18</sup>は、「村井<sup>15)</sup>は、研究方法論の立場から、教育研究を理論的研究、実証的研究、実験的研究及び歴史的研究の四つに分けて紹介している」と述べている。また、教育研究に関する文献には、文献のタイトルや内容に「実証的」の語句が多く見られる。**実証的研究**について、西川<sup>5)</sup>、西田<sup>6)</sup>は次のように述べている。

教育における実証的研究とは、自分が語りたいことを、一定の手法に従って語ることである。どのような手法を用いても、自分が実践を通して直感的に感じる以上の結果は出ない。実証的研究の技法とは、自分が直感的に感じるものを、他の人に感じさせるための技法である。（西川<sup>5)p10</sup>）

実証的研究では特異な統制手段を講ずることなしに、自分の指導している学級で、ともかく授業実践を通して問題点をみつけ、改善の方途（指導仮説）を提案するとか、または、研究仮説として提案したことが正しいか否かを授業実践を通して、証明するにたる事実や現象をできるだけ多く集めればよいのである。

（西田<sup>6)p18</sup>）

また、西田<sup>6)p22</sup>は、「**実験(的)研究、実践(的)研究、調査研究、事例研究などは、広い意味での実証(的)研究に含まれるものである**」と述べている。次の表は、西田<sup>6)p17~22</sup>の「研究の領域、種類」の記述をもとに、教育研究の分類を性質別の視点でまとめたものである。

研究の種類	研究内容の例	研究方法の例
A 実践研究	課題について、実際に学級を用いて実践を行い、指導上の問題点の抽出や指導仮説を提案したり、平素実践している指導法の効果を見極めたりする研究	・問題点→授業実践→問題点の抽出、指導仮説の提案、指導法の効果検証等
B 調査研究	調査を実施し、その結果を分析したり、考察したりする研究	・事前調査→問題解決のための調査仮説設定→検証のための事後調査等
C 事例研究	特定の児童・生徒や事象を対象に行われる研究	・因果関係の追求→指導法の発見等 ・新しい指導法を指導仮説として実践→効果を検証等
D 教材開発研究	教育実践に役立つ教材や教具の開発を目的に行う研究	・学問的背景→教材・教具開発→学級での実践吟味等

このA～Dは、学校で実際に行われている教育研究の実態を、ほぼすべて網羅している。

ただし、調査研究や事例研究、教材開発研究を土台に実践研究としてまとめられる研究も多い。その意味で、**教育研究の多くは、広義に実践研究として分類されるものが多くなっている。**

研究を始めるにあたり、**自分の行おうとする研究はどの性質を持つものか**を考えてみると、研究の見通しが持ちやすくなると考える。

研究手法としての帰納的研究、演繹的研究については、研究の進め方の項で触れることとする。